



SDGs&カーボンニュートラルに参画しよう

安全で快適に暮らせるまち

子ども食堂

子ども食堂は、みんなが集まってごはんを食べたり、お話ししたりしながら交流しあえる場所です。お世話をしているのは、地域のボランティアの皆さんです。

おうちで余っている食材を提供して、この活動を応援しましょう！

子ども食堂が貢献（こうけん）しているSDGs（エスディージーズ）のゴール



①ゴール2／飢餓（きが）をゼロに

ごはんが十分に食べられない人に食べものを提供するので、「おなかですいている人をなくす」ことに役立っています。



②ゴール3／すべての人に健康と福祉を

バランスのとれたごはんを食べることで、元気な体をつくることができます。



③ゴール12／つくる責任 つかう責任

おうちで食べきれなかった食べものや、まだ食べられるけどすててしまいそうな食べものを、子ども食堂にもっていくと、ムダを減らすことができます。



④ゴール13／気候変動に具体的な対策を

食べものをムダにしないことで、燃やすごみの量が少なくなりCO₂（二酸化炭素）を減らすことができます。

食べもののムダとCO₂

日本では、毎年472万トン*の食べものが食べられるのに捨てられています（食品ロス）。国民1人あたりで考えると、おにぎり1個分（約103g）の食べものが毎日捨てられていることになります。食べものは作られるときはもちろん、捨てられるときも、たくさんのエネルギーを使います。エネルギーを使うときにはCO₂が出ます。CO₂は地球を温めてしまう「**温室効果ガス**」の主なもので、**地球温暖化**の原因となるものです。

*農林水産省及び環境省（2022年度推計）

たとえば

おにぎり1個をムダにすると、約57gのCO₂が出ます。これは、**テレビを1時間つけっぱなしにするのと同じくらい**のCO₂です。

わたしたちにできること

もし、おうちにまだ食べられるけれども余っている食べ物があれば、**子ども食堂にもっていきたり、フードドライブで寄附したりすることで、困っている方の助けになります。**そうすることで、食べものが捨てられずに、その分のCO₂も出なくてすみます。

